

# 平成29年度 施策評価シート

基本目標	Ⅲ	新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる
政策	320	こだわりをもった魅力ある商業・サービス業の集積を進める
施策	321	消費者から選ばれる魅力ある個店の集積を進める
施策の目標	消費者のニーズに的確に対応するとともに、新たな提案を行うことができ、利用者が「何度も行きたい」と思うような魅力的な個店が集積し、多くの消費者が訪れ、買い物や飲食、サービスを楽しんでいます。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「区内になじみの店がある」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	75.1%				78.0%					80.0%
実績										

指標名	区内小売等付加価値額									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	2,947億円				3,241億円					3,500億円
実績										

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
魅力ある個店が集積し、商店街や地域と連携した商業空間が形成され、区内での消費が拡大していく。 個店の財産形成に係るところへの支援が主であるため、慎重な事業展開をする必要があり、事業効果が確認できるまでに時間がかかる。	H28	809
	H29	
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	事業の見直しを行い、新規事業を展開する。

## 4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
事業の見直しを行うため。	
【今後の具体的な方針】	
新規事業を効率的かつ効果的に機能させ、目標を実現させる。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	魅力ある個店づくり整備促進事業	809	区内の既存個店や出店希望者が行う、魅力的な店舗づくりを支援することで、魅力ある個店の集積を図る。	22 4	↗	廃止 平成28年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

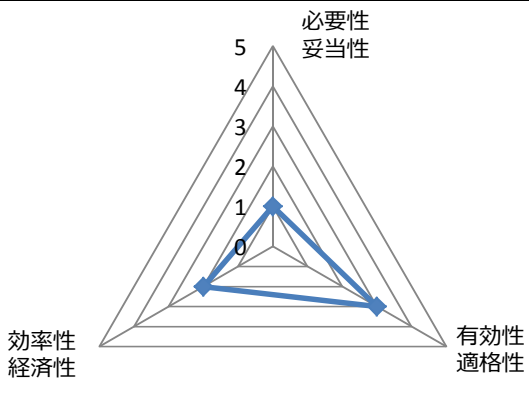
# 平成29年度 事務事業評価シート

施 策	321	消費者から選ばれる魅力ある個店の集積を進める	部内優先順位					
事務事業	魅力ある個店づくり整備促進事業費					1		
事業概要	意欲ある事業者の集積を通じ、魅力ある個店を拠点に楽しめる商業空間を創出するとともに、観光客や来街者の回遊を促し、商業活性化を図ることを目的に、対象地域への新規出店、既存個店の魅力向上を支援する。					主管課・係（担当）		
						産業振興課		
						03-5608-6187		
施策への 関 連 性	区内への新規出店者や既存の個店への支援を通じ、魅力ある個店や商業空間を創出することにより、観光客や来街者の区内回遊を促進し、区内商業の振興を図ることにつながる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	加算元の国の補助金の採択率が低く、区内の個店へ本事業の効果を波及できていない。さらに、29年度から実施の「地域力を育む商業空間づくり振興プラン」に基づき、商店の魅力ある個店へのレベルアップに向けた支援を区単独で実施する「商店魅力アップ支援事業」を開始する。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	既存個店・新規出店への支援				単 位	店
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		22	28	目 標	22			
				実 績	4			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標						
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内への新規出店者や既存の個店への支援をすることで、実績数が目安となるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
				目 標				
				実 績				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標						
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	809							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	未把握				
代替可能性の有無	ある				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
区内商業の活性化にあたっては、これまでの商店街を対象とした支援に加え、個店単位での支援を充実させていくことが必要である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由					
上乗せ元となる国補助金の採択のハードルが高かったことから、事業効果が限定的となった。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
		1	2	1	1
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">必要性等が失われたため廃止</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ある				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
対象エリアを指定することにより、バラマキとせず集中的な支援を実施した。					
中間・最終年度の講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果が限定的となっている。</li> <li>・個人の資産形成に関与することから、公平性確保への留意が必要である。</li> </ul>				
今後の方向性	加算元の国の補助金の採択率が低く、区内の個店へ本事業の効果を波及できていない。よって、本事業を再考し、29年度から商店の魅力ある個店へのレベルアップに向けた支援を実施する「商店魅力アップ支援事業」を開始する。				

# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	魅力ある個店づくり整備促進事業補助金						主管課・係（担当）	
根拠法令	魅力ある個店づくり整備促進事業補助金交付要綱						産業振興課	
事業概要	意欲ある事業者の集積を通じ、魅力ある個店を拠点に楽しめる商業空間を創出するとともに、観光客や来街者の回遊を促し、商業活性化を図ることを目的に、対象地域への新規出店、既存個店の魅力向上を支援する。						03-5608-6187	
							事業の終期	
							平成28年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 加算元の国の補助金の採択率が低く、区内の個店へ本事業の効果を波及できていない。さらに、29年度から実施の「地域力を育む商業空間づくり振興プラン」に基づき、商店の魅力ある個店へのレベルアップに向けた支援を区単独で実施する「商店魅力アップ支援事業」を開始する。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	既存個店・新規出店への支援				単位	店
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		22	28	目標 実績	22 4			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標 実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	区内への新規出店者や既存の個店への支援をすることで、補助額が目安となるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
				目標 実績				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標 実績						
指標の選定理由及び目標値の理由								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		809						
		H35	H36	H37	〔予算の傾向〕			
施策への 関連性	区内への新規出店者や既存の個店への支援を通じ、魅力ある個店や商業空間を創出することにより、観光客や来街者の区内回遊を促進し、区内商業の振興を図ることにつながる。							

1 必要性・妥当性			1	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	していない	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められない	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
区内商業の活性化にあたっては、これまでの商店街を対象とした支援に加え、個店単位での支援を充実させていくことが必要である。				
2 有効性・適格性			3	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されていない	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致していない	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ある	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ない	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっていない	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	不明確	
判断理由				
上乘せ元となる国補助金の採択のハードルが高かったことから、事業効果が限定的となった。				
3 効率性・経済性			2	
類似する補助事業がないか	ある	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ない	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑である	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	していない	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
対象エリアを指定することにより、バラマキとせず集中的な支援を実施した。				
【評価結果】				
中間・最終年度の講評		<p>廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果が限定的となっている。</li> <li>・個人の資産形成に関与することから、公平性確保への留意が必要である。</li> </ul>		
今後の方 向 性		<p>加算元の国の補助金の採択率が低く、区内の個店へ本事業の効果を波及できていない。よって、本事業を再考し、29年度から商店の魅力ある個店へのレベルアップに向けた支援を実施する「商店魅力アップ支援事業」を開始する。</p>		